

ウランタナ Uiantana (烏蘭塔娜) (D3) 岡研

「ボグド・ハーン政権成立後に日本が把握したモンゴルに関する情報の情報源  
について 1912年8月～1912年12月」

On the sources of information about Mongolia collected by Japanese agencies  
after the establishment of Bogdu qaGan government.

## 要旨

ボグド・ハーン政権は1912年末ロシアの援助を受けて外モンゴルで成立した新政権である。当時のモンゴル問題にはロシア、中国、日本が深く関わっていた。特に、1912年7月8日の第三回日露協約によって、日露両国は満洲における境界線を延長するとともに、内モンゴルを北京の経度（東経116度27分）を以て東西に分けて、両国はそれぞれの地域における相手国の特殊利益を承認し、尊重することを約束したのであった。

協約が結ばれたことによって日本はロシアに対する警戒心を少しは緩めたが、やはりロシアの援助で樹立されたボグド・ハーン政権の内モンゴルに対する動きに関心を寄せている。特に、1912年8月から12月までの内モンゴルでは頻繁に起きている蜂起運動、そしてそれを鎮圧するために中国が軍を派遣するなど一連の勢力圏内に起きている動静が日本に注目されていた。そのため、日本は勢力範囲下に入れた東部内モンゴル地域に関するすべての情報を積極的に収集していた。

日本は当時これらの情報を駐中国日本領事館と関東都督府を通じて、日本に送られていた。本発表では、この時期のモンゴルに関する日本の情報収集を取上げて、情報源を考察することによって日本が当時把握したモンゴルに関する情報の特徴、情報収集の体制などを明らかにしたい。

## 清代の内外モンゴルと東三省



『中国歴史地圖集』 清朝期 (中国地圖出版社、1996年) により作成